

■研究のきっかけ

日本の歴史教科書を初めて読んだ時、日韓が共有する同じ出来事が異なる形で記憶されていることに驚きました。例えば、日清・日露戦争を「被害の歴史」として学んできた韓国人の私にとって、「勝利の歴史」「大国化の歴史」として語っている日本の歴史教科書は衝撃的でした。その時、もしかしたら、同じ出来事を異なる形で記憶していることが日韓を含むさまざまな集団間の葛藤の原因ではないかと考え、私が専門としている社会

科教育を通してその問題の改善に取り組むことにしました。

■研究内容(対話プロジェクト)

子どもたちが集団間の境界を越えて対話できる機会を作っています。具体的には、教科書を媒体として、異なる語りと出会い、なぜ異なる語りが生じているのかを探究し、対話の相手と共に教科書を改善していく「より良い教科書」プロジェクトを実施しています。日本と韓国の子どもたちを対象に始まったプロジェクトですが、日本と米国の子どもたちや日本と韓国の教員

志望学生にまで対象が広がっています。また、教科書だけではなく、映画や博物館を媒体とした対話も実施しています。

■研究成果

子どもたちが日本と韓国では同じ出来事がこんなにも違うことや、なぜ同じ出来事を違う形で記憶させようとするのかという理由を知り、歴史に対する理解が深まりました。一つのバージョンに統合できませんでした。違いを埋めていくためには対話続ける重要性や歩み寄ろうとする態度が見られたのは大きな成果です。

■研究の原動力

日本と韓国で同じ出来事を違うように学んでいるという問題を発見した私の責任感と、異なる語りを持つ他者とともに生きる市民を育てたい。誠実に公正な社会のために教育で何ができるかを目指したいという思いが原動力です。日本と韓国がお互いに対話を続けながら歩み寄ってほしいので、私にできることがあれば貢献したいです。

■広島大教育ヴィジョン研究センター(EVRI)

多様な教育のビジョンを研究するセンターです。私はEVRIの一員として自分ができることを提供しながら、共同研究やセミナーなどを企画したり、市教委と連携して市内複数の小・中学校をオンラインでつないで学習する、広域交流型オンライン学習を行っています。みんなで議論し、違う考えに触れることができる良い学びの場です。

■今後の研究目標

日韓関係を大事にしながら、日本社会のマイノリティー(少数派)とマジョリティー(多数派)の人々との対話の機会を多く設け、さまざまな人に伝えていきたいと思っています。対話続けることの重要性をお互いに感じてもらい、教育を通して対話続けることが重要であると考えられる社会をつくっていききたいです。

異なる語りを持つ他者とともに生きる市民を育てたい

広島大学の若手研究者に聞く
専門は社会科教育学、平和教育

教育を通して対話を続けることが重要であると考えられる社会をつくっていききたい

広島大学院人間社会科学部研究科准教授

キム・ジョンソン
金 鍾成さん

1984年韓国生まれ。東広島市在住。韓国ソウル教育大学で修士(教育学)、広島大で博士(教育学)を取得。全国社会科教育学会研究奨励賞受賞。2022～24 全米社会科協議会(NCSE International Assembly)インターナショナルアセナブリの会長、広島大教育ヴィジョン研究センター平和・市民性教育准教授。2021年から現職。



違いを楽しむ

▶日米の子どもによるより良い「ヒロシマ」教科書づくりプロジェクト



▶複数の学校をつないでオンライン上で対話の場を創造する広域交流型オンライン授業

